



連合会だより102号

2025年 3月

216 団体
76,773 世帯
町田市原町田 4-9-8
042-722-4262
発行人 高橋清人

2026年4月

町田市全域 容器包装プラスチック分別がスタート

2024年度 町田市町内会・自治会連合会役員研修会

2024年度の役員研修会として、リレーセンターみなみ、バイオエネルギーセンターを視察しました。

リレーセンターみなみは、JR横浜線より南の地域で収集した燃やせるごみの積み替え中継施設として1985年から稼働しています。また、2016年からは南地区の容器包装プラスチックの分別収集開始に伴い、資源化施設として限られたスペースを効率的に運用し町田市のごみ資源化を支えています。

町田市バイオエネルギーセンターは、2022年1月に稼働開始しました。生ごみのバイオガス化施設とごみ焼却施設を一体的に整備した首都圏初の施設です。



火災が発生しています。

火災によって、ごみ収集・処理の中断によって市民生活に甚大な影響を及ぼす恐れがあると共に、ごみ収集・処理に携わる方々が命の危険にさらされます。また、燃えた設備の修復等に多額の費用を要します。

しかし、2023年11月にバイオガス化施設内で火災が発生しました。バイオエネルギーセンターでは、施設稼働後に大きな火災が4回、ごみ収集車でもこれまでに多くの火

災防止には、一人ひとりが正しいごみの出し方を知ることが大切です。研修会では、リチウムイオン電池が燃えないゴミへ混入されていたのが、近年では「燃えるゴミへの混入」も見られるとの事でした。



さて、2026年4月からは町田市全域で「容器包装プラスチック分別」がスタートします。その特徴は・・・

<指定収集袋は半額>

容器包装プラスチックの指定収集袋は燃やせるゴミ・燃やせないゴミの半額です。

<収集日が増えます>

燃やせるゴミの収集は……………毎週2回
燃やせないゴミの収集は……………隔週1回
容器包装プラスチックの収集は毎週1回
全体として収集日が増えます。

<SDGsに貢献>

子ども達により良い世界を引き継ぐために
ゴミ分別で「SDGs」に貢献することが
出来ます。

(編集委員 熊坂恵司)



地域ケア会議+防災教室 2024

2024年11月9日(土)10:00~12:00 会場:都営南大谷団地・恩田川



「防災教室」を始めたきっかけは、2022年、町田市第3高齢者支援センターの呼びかけでした。南大谷を多世代交流のできる地域にしていきたいという思いに共感した南大谷町内会、南大谷団地自治会、南大谷子どもクラブMOこもこ、町田第二地区民生委員児童委員協議会が集まり、高齢者支援センターと一緒に実行委員会形式で進めています。

会場となった南大谷団地は4棟からなり、自治会員数は280世帯ほどとコンパクトにまとまったエリアです。それに比べ南大谷町内会の会員数は1,100世帯もあり居住エリアがとても広いです。

団地の特徴は構内に広場や余剰地があることですが、この場所は公道から見えづらい裏手になります。また同じ建物内に南大谷子どもクラブがあり、地域の子どもや親子がたくさん遊びに来ています。「防災教室」をきっかけに、普段から町内の多様な世代の住民が行き来しやすくなることもこのイベントの狙いの一つです。

主催:地域ケア会議防災教室実行委員会

協力:玉川学園・南大谷地区協議会、町田市消防団第1分団第4部、町田市防災安全部防災課、町田市保健所保健課予防歯科係
当日のボランティアをはじめ、多くの皆様のご協力により、防災教室は開催することができました。

今回3回目となった「防災教室」ですが、過去2回の事前申し込み制、グループでの移動をやめ、誰もが参加しやすいように当日の受付としました。名簿に記入しリストバンドをもらったからスタートです。集会所では特殊なメガネをつけると浸水が見えるAR体験。南大谷子どもクラブMOこもこでは、防災シアターを上映しポップコーンや綿あめが振舞われました。団地の広場では消防服・消防車体験、防災備品のお話、防災食の試食、子どもクラブによるゲーム大会を行いました。南大谷地域ならではの恩田川での放水体験は豪快で、子どもにも大人にも大人気でした。6つのコーナーを体験しアンケートに答えると、子どもはお菓子、大人は防災用品の参加賞がもらえるおまけ付き。ボランティアを合わせ120名の参加があり、楽しく防災体験をする良い機会となりました。

毎回残る課題は、目的とする多世代交流は本当にできているのか。気軽に声をかけ合える地域を目指して、来年度も模索は続くでしょう。



MOこもこ入口



恩田川での放水



AR体験



展示



南大谷町内会提供:ポップコーン・綿あめ



防災備品のお話



アンケートには多くの方が記入

(編集委員 大野浩子)